

九工大に“憩いの場”

室内拡張5年間で座席2.4倍

学生「居心地良くなった」

飯塚市川津の九州工業大 情報工学部が、キャンパス 内での学生の生活環境を向 上させようと、憩いの場の



飲食自由の憩いの場「ラーニングアゴラ」。約400席あり、学生たちは勉強や雑談など、夜まで自由に使える

拡張を図っている。休憩や自習ができるスペースの座席数は約860席。約5年間で2・4倍になり「居心地が良くなった」と学生たちには好評だ。

色とりどりの椅子やソファと、勾玉状の机が一面に広がる部屋。パソコンを持ち込んで研究成果を発表し合うグループや、菓子を食べながら雑談をするグループなど、それぞれが自由に時間を過ごしている。昨年3月に完成した施設「ラーニングアゴラ」だ。午前8時から午後8時半まで自由に過ごせ、土曜日も開放している。

以前は、学生がくつろげる場は食堂の約360席だけだった。約2300人の学生に対して多くはなく、

常に混んでいた。九工大によると、自由時間を過ごせる居場所が少なかったため、授業が終わると真つすぐ帰宅する学生が多かったという。延山英沢学部長（55）は「大学は学問だけでなく、社会に出る前に人間関係を学ぶ場でもある。良い意味での『たまり場』を大学が提供しなければと思った」と話す。

2009年から談話室や学習室の建設、図書館の模様替えをし、約500席増やした。多くの部屋で飲食でき、利用も朝から夜まで可能だ。引込み思案な学生にも居心地の良い環境をつくらうと、食堂やアゴラにはカウンター席も設置。「大きいテーブル席だけでは1人では利用しづらい」という大学側の配慮だ。沖縄県出身の知能情報工学科1年仲村明音さん（19）は「憩いの場に来れば毎日誰かに会えて安心する。大学の居心地が良くなった」と話した。（中島早貴）